

山王美術館の麗子  
4年ぶりの公開

山王美術館コレクションでつづる

# 岸田劉生

誕生  
135年

2026.9.3thu-2027.1.31sun

- 【開館時間】 10:00～17:00 (入館は16:30まで)  
【休館日】 火曜日・水曜日 (但し、9/22・9/23・11/3は開館)  
年未年始(12/29～1/2)  
【入館料】 一般 1,300円/大学・高校生 800円  
中学生以下 500円(保護者同伴に限り2名様まで無料)

\*障がい者手帳をご提示の方およびその介助者(1名)は1,000円  
\*前売券・団体券はございません。  
\*山王美術館は日時指定予約制ではありませんが、展示室が混雑し、一定の人数をこえた場合には、入場制限をさせて頂く場合がございます。

  
山王美術館  
SANNO ART MUSEUM

〒540-0001 大阪市中央区城見2丁目2番27号

【お問合せ】 06-6942-1117

<https://www.hotelmonterey.co.jp/sannomuseum/>

JR「京橋」駅・京阪「京橋」駅・大阪メロ「大阪ビジネスパーク」駅より徒歩5分

  
山王美術館  
SANNO ART MUSEUM

## 【展覧会概要】

山王美術館では2026年9月3日（木）より2027年1月31日（日）まで、  
「生誕135年 山王美術館コレクションでつづる 岸田劉生展」を開催します。

愛娘・麗子の肖像画で知られ、日本の近代美術史を代表する画家の一人である岸田劉生（1891-1929）。黒田清輝の洋画研究所で外光派の表現を学び、雑誌『白樺』に紹介されたゴッホなど後期印象派の作品に強く感銘を受け画風が変化、北方ルネサンスの細密な写実表現を経て、中国の宋元画や肉筆浮世絵といった東洋画への傾倒へと至るまで、わずか38年の短い生涯で、日本画や油彩画といった洋の東西を超えた多彩な作品を描きました。

本展では、岸田劉生の生誕135年を記念し、4年ぶりの展示となる《麗子肖像》をはじめとする肖像画、京都時代の日本画、晩年の静物画など、当館所蔵の劉生作品を一堂に公開いたします。またコレクションより、武者小路実篤ら白樺派文化人との交友を示す《白樺同人寄書帖》、富本憲吉、梅原龍三郎、中川一政など、劉生と関りの深い同時代の作家作品もあわせてご覧いただきます。

山王美術館でしか出会うことのできない作品の数々を、どうぞお楽しみください。

- 【開催期間】 2026年9月3日（木）～2027年1月31日（日）
- 【開館時間】 10時～17時（最終入館16時30分）
- 【休館日】 火曜日、水曜日（但し9月22・23日、11月3日は開館）  
年末年始（12月29日～1月2日）
- 【入館料】 一般 1,300円、大学・高校生 800円、  
中学生以下 500円（保護者同伴に限り2名様まで無料）  
障がい者手帳をご提示の方およびその介助者（1名）は1,000円
- 【お問い合わせ】 一般財団法人 山王美術館 学芸担当 大町啓介  
〒540-0001 大阪市中央区城見2丁目2番27号  
TEL 06-6942-1117 FAX 06-6942-8700  
E-mail: k-ohmachi@hotelmonterey.co.jp  
URL: <https://www.hotelmonterey.co.jp/sannomuseum/>

# 岸田 劉生

Kishida Ryusei

1891-1929

明治の先覚者岸田吟香の四男として東京・銀座に生まれる。1908年に白馬会葵橋洋画研究所にて黒田清輝に師事し外光派の表現を学ぶ。1911年、前年に創刊された文芸雑誌『白樺』紙面で紹介されたゴッホなど後期印象派に感銘を受ける。同年、清宮彬（せいみやひとし）の案内により柳宗悦、武者小路実篤と知り合い、以後『白樺』周辺の文化人と交友を深める。1912年、高村光太郎らとヒュウザン会（翌年フェウザン会に改称）を結成。この頃より北方ルネサンスの影響を受けた写実的な作風に転じる。1915年、中川一政、椿貞雄らと草土社を結成、重厚かつ克明な写実表現は大正画壇に大きな影響を及ぼした。1922年、梅原龍三郎に誘われ、春陽会に客員として参加。翌年、関東大震災の被災により1926年まで京都へ転居する。この頃より宋元画や肉筆浮世絵に傾倒し、東洋的な味わいのある洋画や日本画を描くようになる。1929年、満州からの帰国直後、滞在先の山口県徳山で急逝。1918年、愛娘・麗子をモデルに《麗子肖像（麗子五歳之像）》（東京国立近代美術館）を描いて以降、没年まで様々な姿の麗子像を制作した。

## 【岸田劉生 略歴】

1891年	東京・銀座にて楽善堂精錡水本舗を営む岸田吟香の四男として生まれる
1908年	白馬会葵橋洋画研究所に通い、黒田清輝に師事する
1911年	雑誌『白樺』を愛読するようになり、白樺派の人々と親交を結ぶ
1912年	初の個展を開催、ヒュウザン会を結成する（翌年解散）
1914年	長女・麗子誕生
1915年	現代の美術社主催第1回美術展覧会に出品し、草土社を結成する
1919年	京都、奈良を旅し、古美術に興味を抱くようになる
1922年	梅原龍三郎に誘われ春陽会に客員として参加する
1923年	関東大震災が発生し、京都に移住する
1924年	中国宋元画や初期肉筆浮世絵の蒐集に熱中する
1929年	南満州鉄道に招聘され大連へ発つ。同地で個展を開催 帰国後、滞在先の山口県・徳山にて急逝。享年38

岸田劉生  
《白樺同人寄書帖》（部分）より寒山と拾得  
1922-1924年 山王美術館



## 【展覧会のみどころ】

### ① 岸田劉生「生誕135年」

山王美術館では、2009年のオープン以来、コレクションのみによる展覧会を開催してきました。他の美術館との作品の貸し借りは行っておらず、本展覧会で展示する作品の何れもが、「ここでしか会えない芸術作品」です。

本展では、38年という短い生涯の中で、洋の東西を超えて多彩な作品を残した岸田劉生の生誕135年を記念し、山王美術館所蔵の作品17点に加え、劉生作8点を含めた白樺派メンバーの友情の証《白樺同人寄書帖》も合わせて展示いたします。

#### 初展示

##### 【広報用画像①】

岸田劉生《村娘図》1919年、山王美術館

劉生が神奈川県・鶴沼に在住のころ、麗子像と並んで多く描かれたのが、村娘の作品です。モデルとなったのは、近所から台所の手伝いに来ていた女性の娘「お松」。劉生は「鄙びた田舎娘の持つ或る美」を描こうとしたと述べています。

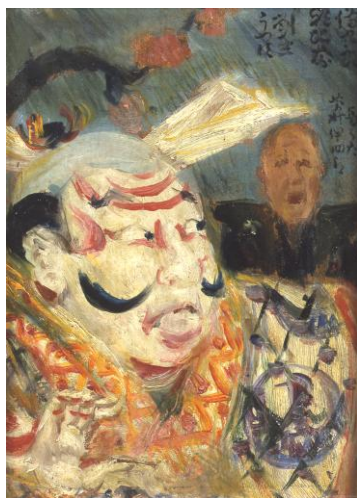


#### 初展示

##### 【広報用画像②】

岸田劉生《芝居絵（六代目中村伝九郎の朝比奈）》  
1922年頃、山王美術館

劉生は歌舞伎の所作に、西洋美術の端正で露骨な美に対し、東洋美術にある一種の卑しさ、下品に見える味の中に潜んでいる、実は渋いところの美、「卑近美（ひきんび）」を見出していきます。



#### 初展示

##### 【広報用画像③】

岸田劉生《菊》1928-1929年、山王美術館

劉生晩年の作品。緋毛氈（ひもうせん）の上に置かれた菊、竹、柿といった東洋的な画題が油絵具と見事に調和し、不思議な存在感を漂わせています。



## ② 山王美術館の麗子像公開

劉生は深い愛情を込めて、愛娘・麗子の作品を数多く描きました。本展覧会では、当館コレクションの《麗子肖像》（1920年）を4年ぶりに展示、また《麗子桜花図》（1920年頃）を初展示いたします。

4年振りの展示！



【広報用画像⑤】  
岸田劉生《麗子肖像》1920年、  
山王美術館

この頃の劉生は、油絵と並行して同じモチーフの素描や水彩画を描いています。新鮮で自由な、力強い味を、素早く描き出すことが出来る素描や水彩画も、劉生にとっては油絵同様に「内なる美」をつかむための大切な表現技法でした。

【広報用画像⑥】  
岸田劉生《お手玉》1924年頃、山王美術館

京都に移住した劉生は、初期肉筆浮世絵の鑑賞と蒐集に熱中します。本作品は劉生が江戸初期の絵師・岩佐又兵衛の美人画を参考に描いた作品です。劉生は麗子をモデルに又兵衛風の麗子図の骨描きをしており、古美術商のために描いた又兵衛風の麗子立像の看板下絵にも酷似していることから、本作のモデルも麗子ではないかと思われま

初展示



【広報用画像④】  
岸田劉生《麗子桜花図》  
1920年頃、山王美術館

麗子像によく登場する肩掛けは、元はお松のものでしたが、劉生はその素朴な味わいが気に入り、麗子のモデルの褒美に買ったばかりの舶来品の肩掛けと交換します。

麗子が初めて絵のモデルを務めたのは数えて5歳の時。以降、約11年の長期に渡って描かれた麗子像は、ひとりのモデルの成長と同時に、画家の画風の変遷を辿る事が出来る、世界の絵画史上においても稀有な事例といえるでしょう。

これも麗子像？



### ③ 劉生をめぐる人たち

白樺派の歌人・木下利玄が所蔵し、劉生も画を寄せた《白樺同人寄書帖》（1922-1924年）、富本憲吉、梅原龍三郎、中川一政など、同時代の作家作品を合わせて展示、劉生と同時代の文化人との交友について紹介いたします。

#### 初展示



河野通勢



富本憲吉



富本憲吉



岸田劉生 / 倉田百三



岸田劉生



【広報用画像⑦】 岸田劉生

《白樺同人寄書帖》1922-1924年、山王美術館

1910年に創刊した文芸雑誌『白樺』の歌人・木下利玄の旧蔵品。1922年の春から肺結核にかかり病床の身となった利玄を見舞に、岸田劉生や白樺派の友人たちが訪れます。利玄の画帖には様々な来訪者が書き込みをしており、友情で結ばれた白樺派の仲間たちの絆をうかがうことができます。

## 広報画像に関するご案内

このプレスリリースに掲載されている広報用画像①～⑦につきましては、  
画像データを プレス掲載用にご用意しております。

また読者プレゼント用招待券も用意しております。

「広報用画像使用申込書」に必要事項をご記入の上、  
FAXまたはe-mailにてご連絡ください。

「ARTPR 展覧会情報」からも、  
広報用画像の申請・ダウンロードができるようになりました。  
下記URLもしくはQRコードからお申し込みください。

<https://www.artpr.jp/sannomuseum/135th-kishidaryusei>



### 【プレスリリースに関する問い合わせ】

一般財団法人 山王美術館 学芸担当 大町啓介

〒540-0001 大阪府中央区城見2丁目2番27号

TEL 06-6942-1117 FAX 06-6942-8700

E-mail: [k-ohmachi@hotelmonterey.co.jp](mailto:k-ohmachi@hotelmonterey.co.jp)

URL: <https://www.hotelmonterey.co.jp/sannomuseum/>

## 山王美術館について



当館は、ホテルモントレ株式会社の創立者が五十数年にわたり収集したコレクションを公開・展示する美術館として、2009年8月27日に開館し、2022年9月2日に大阪市・中央区に移転しました。

600点におよぶコレクション群は、近代の西洋絵画・日本洋画・日本画・陶磁器・彫刻と多岐にわたり、そのいずれもが「ここでしか会うことのできない芸術作品」です。私たちが今日鑑賞することのできる数々の芸術作品は、幾多の歴史を経ながらも、芸術を愛する人々により守られ、次の時代へと託される、この積み重ねのなかで現在へと受け継がれてきました。山王美術館は、こうした先人の思いや願いを継承し、芸術作品を未来へと守り伝えていく役割を果たすとともに、広く皆さまにご鑑賞いただき、美に触れる喜びと感動を分かちあえる場を創出してまいりたいと考えております。